

ノーベル賞受賞者50人以上が書簡

軍事費削減求める

世界のノーベル賞受賞者50人以上が15日までに、各國政府に軍事費を年間2%削減するよう求める公開書簡を出しました。新型コロナウイルスのパンデミック（世界的流行）、気候危機、極度の貧困の解決に向けて資金をあわすよう求めています。

コロナ・気候・貧困解決に回せ

書簡は「世界平和の配当」（由論研究者ジム・ピーブルズといづ活動の一環として、イタリアの物理学者カルロ・ロベリ氏が呼びかけたもの。2011年に平和賞を受賞したイエメンの女性活動家タワッカル・カルマン氏、19年に物理賞を受賞したカナダの宇

野浩氏（14年、物理学賞）、梶田隆章氏（15年、回賞）が名を連ねています。

書簡は、世界の軍事費が年間に兆ドル（約10兆円）近くに上り、00年から倍増したと

指摘。「各国が軍事費を増大させてくる」とが他国に圧力をかけ、軍拡競争の悪循環を持続させている。より賢明な方法で使えたはずの資金が無駄にされている」と述べました。

国連加盟国に対し、軍事費の削減に共同で取り組むため交渉するよう呼びかけ、これにより30年までに一兆ドルが確保できるらしい主張。この資金を半分を、世界で共通する危機を開拓するための国連の基金として配分すべきだと提案し、「人類が直面する危機を食い止める唯一の方法は協力する」こととした



タワッカル・カルマンさん（ノーベル賞のホームページからの引用）



ジム・ピーブルズさん（ノーベル賞のホームページからの引用）



天野浩さん



梶田隆章さん